

キャラクター名
雨魅

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルヒロウ ハヌマーン		ワークス	高校生	カヴァー	高校生
	オプション		年齢	高校一年生	性別	女
覚醒	償い	衝動	破壊	初期侵食率	34 %	
出自	経験		大事故	邂逅		

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	1	1	0			2	行動値	16
感覚	4	0	3			7	(非装備時)	16
精神	2	0	0			2	戦闘移動	21
社会	1	0	0			1	全力移動	42

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉	2	
回避	1		知覚	1		意志	2		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
日常	P 執着	N 嫌悪		
幼馴染	P 盲信	N 不安		
光使い	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
さらなる波	3	2	メジャー		自身	対決	-	
効果: 攻:+(LV×2)								
振動球	1	3	メジャー	視界	-	対決	-	
効果: 攻:+LV、射撃、装甲無視								
コンセントレイト:エンジェルヒロウ	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-LV(下限値7)								
光の手	1	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: 【感覚】で判定								
絶対の孤独	2	3	メジャー				-	
効果: 射撃、命中で対象ダイス-(LV+1)個								
マスヴィジョン	3	4	メジャー				100%	
効果: 攻:+(LV×5)、シナリオ3回								
光の指先	1	2	メジャー/リアクション				D	
効果: ダイス+(LV+2)個								
彼方からの声	1	1	メジャー	視界	効果参照	-	-	
効果: 雑踏の中で秘密の会話をするこも、LVkm先まで声を届けるこもできる								
真昼の星	1	-	メジャー	至近	自身	-	-	
効果: 電波望遠鏡をはるかに凌駕する視力で物を見ることができる								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「私は、姫だよ。大切な人が来るのを待つしかないお姫様。大切な人の側にいられない人魚姫」
「……その話、したくない。ごめんね」
「…日常を守るのは、私の仕事じゃない」
「私?…私は、誰の味方でもないよ。強いて言うなら、大切な人の味方。それだけの」

どこにも属さないフリーのオーヴァード。UGNから任務が来れば仕事はするが、FHの人間と接触する、ましてや戦闘の可能性のあるような任務は断ろうとすることが多い。それはFHからの要請でも同じで、UGNとも極力関わりたいがらない。それでも頼まれると断れないのか、押せば通る。性格としては明るいタイプではなく、大抵何かを諦めたような、微妙に焦点の定まらない目でぼんやりとどこかを見つめている。人付き合いも悪い為周囲からの評判はあまりよくない。自らに敵意を持つ人間に敏感で、「破壊すること」を目的として動いているように見える。しかしながら人を殺すことはできないという複雑な少女。

覚醒は最近で、少し前まではUGNイリーガルだったが今は既に脱退している。
脱退理由は不明。UGNとしての最後の任務では、FHに所属する青年と接触した記録が残されている。

彼女が力を手にしたのも、闇を照らすようになったのも、つい最近のことだった。
彼が何かを隠していることに気付いてしまっからは、罪悪感がその身を蝕んで、やがてそれは彼女をオーヴァードに覚醒させるまでに至った。
シンドロームが発現し、UGNに声をかけられた時は、ひどく嬉しかった。これで最愛の人を守れるのだと、無邪気に喜んだ。彼の隣に立てると、信じていた。彼は、忽然と彼女の前から姿を消した。

力を手にして得たものは、孤独と疑問、それと喪失感。
けれど、それを表に出すのはヒーローじゃないと思った。憧れたヒーローは、お話の中の主人公は、いつだって格好良かったから。だから自分もそうありたいと